

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390800155		
法人名	社会福祉法人しあわせあつくん		
事業所名	グループホームあつくん家		
所在地	愛知県名古屋市長区瑞穂区大喜町4-27		
自己評価作成日	平成29年2月10日	評価結果市町村受理日	平成29年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・季節感を取り入れた内装やイベントの実施 ・事業独自の記入用紙(利用者ごと)や介護支援計画へ活かしやすいシステムづくり ・毎月のホームだよりの作成 ・家族との連携(今後も強化を図りたい課題の一つ)

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosyoCd=2390800155-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>リビングは落ち着きのある空間であり、日常生活を静かに過ごすことができる環境である。ホームは建物の3階に開設されており、利用者は3階のリビングで過ごすことが多いが、建物の1階に地域の方との交流スペースが確保されてあることで、行事等の際には、1階に移動してレクリエーション等が行われている。家族との関係についても、ホームで家族会の取り組みが行われており、家族との交流を行いながら、意見や要望等の把握が行われている。定期的に行われている運営推進会議の際には、ホーム協力医の参加、協力が得られており、家族をはじめとする出席者との医療面に関する情報交換の機会にもつながっている。また、介護計画については、日常の場面毎に支援内容がまとめられていることで、職員間で介護計画の内容を共有しながら、一人ひとりに合わせた支援につなげている。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市長区熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年2月28日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念を掲げ、常に目につく所へ掲示しています。	法人の基本理念をホームの支援の基本に考えており、ホーム内への掲示が行われている。職員にも管理者から理念の実践に関する働きかけを行いながら、利用者の目線での支援につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の方との交流の場は定期的に設けている。(運営推進会議など)実際に民生委員の方も事業所で働いており、情報をきいたりする。	地域の方との合同の日帰り旅行には、ホームからも参加しており交流の機会をつくっている。また、ホーム建物1階の交流スペースを活用しながら、ボランティアの方を招いた交流会が行われている。また、中学生の職場体験の受け入れも行われている。	地域の方との交流の場をつくるために、建物内に交流スペースをつくっている。関連事業所とも連携しながら、活用の場が増えることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	施設見学者や利用者、職員、家族などの相談などのときに活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	最近あったことや利用者の現状報告などをさせていただきようとしている。	今年度より、会議の開催を事業所単位に戻しているが、併設事業所との合同の会議も行われている。会議の際には、ホーム協力医も参加しており、出席者との医療面での情報交換の機会にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	定期的に電話連絡などはとるが、密とはいえるかは分かりません。課題の一つと考えています。	市の担当部署との情報交換等については、主に法人施設長を経由して行われているが、ホーム管理者からも行われている。区内で行われている介護フェスタの際には、ホームからも参加、協力が行われており、交流の機会につながっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての研修会や、日頃の職員教育などで徹底している。	ホームのエレベーターについては、自由に動かし事ができるようにしたことで、事業所間で利用者の見守りを行うよう取り組んでいる。また、職員ミーティングの中でマニュアルを読んでもらう機会をつくり、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	(ニュースになったような)過去の虐待のケースを書面で貼り出し、理解を深めてもらったり、研修などを通じて伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修を通して職員には理解を深めてもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所前の説明会で同意をいただけるように努力している。極力現状の不安点なども聞き出すようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会や運営推進会議の実施。	ホームでは、家族会の取り組みが行われており、家族との交流の機会をつくっている。家族からの要望等については、ホーム管理者の他にも法人施設長も対応する体制がつけられている。また、毎月のホーム便りには、利用者毎の報告が添えられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的なミーティングの実施。 班分けシステムにより、効率的に意見を吸い上げる。	毎月の職員会議が行われており、管理者が把握した意見等は法人施設長にも伝えられ、運営への反映につなげている。また、パート職員に関しても、常勤職員が班長としてチームを組む体制をつくっており、運営に反映できるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	労働環境における相談は親身に乘って下さっている。職員の休み希望や、やってみたい事などの意見は極力反映させられるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	定期的に研修を実施、または外部研修に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	主に法人内ではあるが、事業所を行き来し情報を共有したりしている。他、他施設の見学や食事会への参加などもあり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人または家族、主治医などの意見を介護計画に反映させる努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	上記に同じ		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現在の不安に対する答えを導けるよう努力している。対応していないことがあれば事業所で相談し導入することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	常に明るく、楽しく環境づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設訪問が割と多い方なので、訪問時、または電話連絡などで、定期的に連携を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	訪問者を招いたり、慣れている場所へ出かけたり、買い物に行ったりできている。	利用者との入居前からの関係の方との継続は困難になりつつある現状があるが、利用者の中には、行きつけの美容院を継続している方もいる。また、家族の交流の機会がつけられており、食事や買い物をはじめ、家族と自宅で過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	部屋の配置や歩行動線、席次などを工夫し、うまく利用者同士関われるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	地域の方であれば定期的に顔を合わせ、お話しをするようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意向を極力汲んで運営できるよう努力しています。	1ユニットのホームでもあるため、職員全員での利用者の把握が行われており、日常的に情報交換を行いながら、利用者に関する情報の共有が行われている。また、職員間で細かなチェック記録を残すことで、利用者に関する意向等の把握につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族とのお話しや、前施設のアセスメントなどをまとめています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日頃の記録はまめにとり、現状把握しやすくしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族会やミーティング、介護計画に関わる会議等で反映させている。	介護計画については、日常生活の場面毎に内容が検討されており、3か月での見直しが行われている。また、職員間で日常的にチェック記録を残しながら支援内容を1週間で集計しており、定期的なモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	特に気になったり、注目したことは申し送り用紙にまとめ、ファイリングをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	家族や本人の要望を大切に、対応している。(訪問理美容、マッサージの利用など)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	公園や神社、スーパーなど、利用者と共に足を運んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎週の往診のほか、日中から夜間まで、必要時、対応していただけている。	協力医が関連ホームと合わせて、毎週の訪問診療が行われていることで、日常的な医療面での情報交換の機会にもつながっている。また、ホームに看護職員が勤務している他にも、関連のデイサービスの看護職員による支援も可能な体制である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師訪問時には全利用者の現状をお話しし、相談するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケースワーカーさんや主治医協力のもと、複数病院と連携が図れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族とは契約時または定期的に同意を職員へは研修にて、考える機会を設けている。	ホームは、関連の事業所とも連携しながら、利用者の看取り支援が行われており、ホームでも利用者の支援が行われている。協力医の支援も得ながら、家族との話し合いの機会がつけられている。また、職員への研修の機会もつけられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急対応マニュアルの作成や、手順の掲示のほか、AEDを使つての訓練など。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域の消防署と連携をとり、避難訓練の実施や消火訓練などを行っている。	避難訓練については、ホーム単独での夜間を想定した訓練と関連事業所との合同の訓練が行われており、職員間の連携に取り組んでいる。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保も行われている。	地域の方との協力関係については、ホームの継続したテーマでもある。関連事業所である小規模多機能とも連携しながら、地域の方との関係づくりに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	マンツーマンの時は多少くだけたように、皆さんの前ではしっかりとした言葉づかいといったようにメリハリをつけてもらえるよう努力している。	理念の内容でもある「人の不幸のうえに自分の幸福を築かない」の考えのもと、職員の利用者に対する対応等について管理者からの注意喚起等が行われている。また、職員間で研修会の取り組みも行われており、職員の振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	話しかけ依頼をしたりする際はなるべく疑問形にて、あくまで利用者さんの決定を重視できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その人のペースを把握し、一目通して無理なく過ごせるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理美容の利用、服を一緒に選んだりしている。お化粧をみなさんでしたこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食器洗いや机ふくなどお手伝いいただいている。おもてなしという点ではスタッフが配膳することが多い。	食事については、関連のデイサービスの厨房から提供されており、利用者の身体状態に合わせた食事形態の提供も行われている。日常的な利用者の参加は難しくなっているが、できることに参加する取り組みが行われている。	ホームでのおやつ作り等の取り組みが少ない現状がある。利用者の楽しみでもあるため、職員間での検討に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日常量を記入し、バランスが崩れれば、主治医の力も借りながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを実施している。その人に応じて歯ブラシを替えたり、口腔ティッシュを使ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	可能な限りショーツの使用を継続してもらえ る支援をしている。おむつ使用の方はムレ なども気にしながら適切なパットやリハパン 選びを心がけている。	職員間で利用者全員の排泄チェックが行わ れており、日常的な申し送り等も行いながら、 一人ひとりに合わせた声かけ等につなげて いる。また、協力医との排泄面での情報交換 も行われており、排泄状態の維持、改善につ なげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる。	服薬や日中の体操、場合によっては専用の 紅茶など、色々試している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	だいたい2日に一度です。(AMでもPMで も)本人より希望があれば協力追加入浴で きるよう対応している。	入浴については、1日おきの午前の時間を中心 に行われており、利用者は週3~4回入浴 している。また、ホームにはひのきの浴槽が 設置されており、利用者が日常的に木の香り を楽しむ取り組みが行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、 休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	夜間はもちろん日中も静養したい方のため に居室管理をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている。	薬内容をファイルし掲示、服薬内容変更が あれば、慎重に観察しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	レクや体操のない時のために絵やパズルな ど、行えるよう準備している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出か けられるよう支援に努めている。又、普段は行け ないような場所でも、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら出かけられるように 支援している。	家族の力も借りながら定期的に外出するよ うにしている。	利用者が日常的に外出することができるよ うに、利用者の外出チェックが行われており、 外出状況の確認が行われている。季節に合 わせた花見や紅葉の取り組みの他にも、地 域の方との日帰り旅行の取り組みも行われ ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	事業所の方針により金品、貴重品は部屋へ置かず、場合によっては預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人から要望があれば対応。スタッフが代わりに連絡をとることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	定期的な清掃、観葉植物やパット置きが目隠しなど配慮している。	リビングが建物の3階であることで静かな環境でもある。1階には交流スペースがあることで、行事等の際には利用者が集うことができる環境が整えられている。また、リビングや通路の壁には、季節感のある飾り付けや利用者の作品等の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室とフロアをいつでも行き来できるような環境づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具、写真や仏壇など持ち込み置いてもらっている。	居室には、利用者の意向等に合わせた、様々な家具類をはじめ、家族との写真や好みの物等の持ち込みが行われている。また、居室についても和風の空間となっており、居室の中には畳敷きの部屋も用意されてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	危険なものは置かず、本人の意思で物を取りに行ったり、使ったりできるような家具配置などを工夫している。		